

株式会社タカフジ

大分県大分市

需要獲得
ものづくり

地域資源「温泉」と自社のプラント技術を応用し 再生可能エネルギー事業や環境配慮型農業に挑戦

同社は、プラントの構造物の製作や配管、機器据え付けなどを行うプラントエンジニアリングメーカーである。プラント建設で培ったノウハウ・技術を駆使し、農業・エネルギー分野に進出。地熱・太陽光・バイオマス発電といった再生可能エネルギー事業への取組や、同社で開発した「温泉熱を利用した熱交換システム」とICTを活用した次世代型農業に取り組み、環境配慮型農業等を実践している。地域と社会の未来を切り拓く企業として地域未来牽引企業に選定された。

所在地	大分県大分市三佐6-2-50	設立	1989年
電話/FAX	097-523-2323 / 097-523-2355	資本金	2,000万円
URL	http://takafuji-gr.co.jp/	従業員数	71人
代表者	代表取締役 佐藤 隆彦		



同社開発の「温泉熱利用型の農業用熱交換システム」

大分県の地域資源である「温泉」と、30年以上にわたり培ったプラント技術を応用し、「温泉熱利用型熱交換システム」を自社開発（特許取得）。農業ハウス内に張り巡らせた配管の中には高温の循環水が流れており、その配管の放熱によりハウス内の温度制御をしている。放熱後の温度が下がった循環水は再び熱交換システムに戻り、再び高温に加温される仕組みになっている。2016年の稼働当時より化石燃料未使用によりCO₂排出ゼロの実現、そしてA重油換算時の暖房コスト（年間8千万円程度）を完全に削減できている。本システムの導入により「Jクレジット制度」に登録され、削減CO₂が認証されている。



地域未来牽引企業認定証

グリーンで持続可能な次世代型農業経営

同社では、地域の「しごと創出」として事業を展開するうえで、地域の農家と競合しない農作物として、国産品が非常に少なく、かつ栄養価の優れた食材であるパプリカを栽培している。自社開発の熱交換システムにより、CO₂排出を抑えたエコな栽培での周年栽培を実現し、ICT活用により、施設内における集荷物の自動運搬や集荷ラインの管理等を実施している。現在、パプリカの供給が間に合わないほど受注を受けており、ハウス拡大を推進している。



栽培したパプリカ

安心・安全な食材と技術で農業・エネルギー分野の海外展開を図る

農業関係では、国際基準の生産管理認証制度である「GLOBALG.A.P」を取得。また、越境ECの取り組みとして、中国とアメリカへ当社の食材や加工品を輸出する予定があり、コロナの影響により一時的にストップしているが、今後、海外展開の取組を推進する。エネルギー関係では、バイオマス発電事業を実施しており、その使用燃料であるパーム椰子殻をインドネシアのグループ企業にて集出荷を実施。今後、日本各地で予定されているバイオマス発電所向けに、パーム椰子殻の「長期安定供給」を目指す。



パーム椰子殻

需要獲得

ものづくり